

朝鮮学校を高校無償化から除外することを国に求める意見書が昨年一二月、道議会で可決された。賛成した会派は自民党・道民会議、公明党、フロンティア。根柢のない風評と悪意に満ちた憶測に基づき、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）と朝鮮学校を同一視し、在日朝鮮人社会への敵意をおおる内容になっている。この信じ難い人権侵害意見書をメディアはこぞつて黙殺した。黙殺することが良識だと考えたのだとすれば、見当違いも甚だしい。眼前で起きている人権侵害を見て見ぬふりをするのが良識であるはずがない。

どこかで雛形が用意されたと思われる。日本語としても恥ずかしい悪文の意見書は朝鮮高級学校（高校に当たる）で行われている教育について、こう決めつける。

「金日成・金正日に対する徹底した個人崇拜のもと、客観的な事実に基づく朝鮮の歴史ではなく、『金日成・金正日の家系史』が教育されており、到底、『歴史教育』あるいは『民族教育』と呼べる内容ではない」

「拉致問題を初め朝鮮戦争や大韓航空機爆破事件についても、日本、韓国が極大化したなどの虚偽・捏造の歴史教育がなされている」

「このような教育内容は、朝鮮高級学校に通う子どもたちに対して、日本社会や国際社会に対するあつれきを生み出すものであり、独裁体制を支えるための『思想教育』として人権侵害の疑いさえある」

意見書に賛成する前に朝鮮学校に実際に足を運び、意見書の内容の真偽を自分の目と耳で確かめた議員は一人でもいたのだろうか。民族教育を継承してきた血のじむ

在日朝鮮人への敵意をおおる議員たち

ような苦勞にも、歪んだ日本人から在日が受けている卑劣な嫌がらせや差別にも普段は全く関心のない議員たちがこぞとばかり、「民族教育」について託宣をたれ、朝鮮学校に通う子どもたちを、その教育内容によって「人権侵害の疑いさえある」と思いやる。自分たちの人権感覚を問う品性はここには皆無である。

◇ ◇

北海道朝鮮初中高級学校（札幌市清田区）には現在約百人の子供たちが通っている。韓国籍や日本国籍の子供もいることを議員たちは知っているだろうか。朝鮮学校が高校無償化から除外されると、日本の高校を選択することの経済的条件の格差が拡大し、ただでさえ経営が楽ではない朝鮮学校は生徒の確保が益々困難になるだろう。

朝鮮学校の生徒や教職員が心情的に祖国と祖国の指導者に敬意を払うのは、民族教育に支援の手を差し伸べてもらったことへの恩義を感じているからだ。ただし、それは朝鮮学校のごく一部の姿でしかない。

朝鮮学校では自分で考え、判断できる子供を育てる人間教育が行われている。そうでなければ、差別と偏見に満ちた日本社会を生き抜いていけない。知識を丸暗記することでぬくぬくと生きていける偏差値エリートを作り出すことが教育だと思っている日本の学校が見習うべき部分が多々ある。

◇ ◇

朝鮮学校を支援している在日朝鮮人総聯合会（朝鮮総連）の青年商工会による「ウリ（私たちの）民族フォーラム」という全国イベントが昨年九月五日、札幌市民ホー

ルであった。第一部「在日同胞100年史」では、映像と芝居などで在日の苦難の歴史を振り返った。この中で二〇〇二年九月の小泉純一郎首相・金正日総書記による日朝首脳会談の場面に続いて「拉致事件が在日同胞社会を混迷の渦に巻き込んだ」と語られる。字幕付きナレーションはこう続く。

「それまで拉致はあり得ないとしていた人たちにとつて青天の霹靂以外の何のもでもなかった。この問題がきっかけとなり、総連組織を離れていく同胞もいた。連日のマスコミ報道……。総連組織や同胞たちに向いた矛先。何を言われても縮こまるしかないように思えたのかもしれない。縮こまる……。なぜ……。自問自答を繰り返し……。立ち上がり……。今日も在日同胞は一步ずつ進んでいる。現在も組織や同胞社会が抱えている問題が数多く存在するのも事実である。しかし、それがすべてを否定することには決してなりえない。対岸の火事を眺めているのではなく、問題点をつつずつ解決していくというその姿にこそ、同胞社会の未来はあるのではないだろうか」

在日の人々が受けた心の傷の深さが伝わってくる。北朝鮮を祖国とし、朝鮮総連に組織されている人々は拉致事件を正当化も極小化もしていない。日朝関係が不正常な中で起きた忌まわしい歴史の一ページとして見据えている。在日朝鮮人を追い詰めて恥じない議員たちにはいささかでもまともな人間としての感性があるのなら、太平洋戦争下の米国で敵国人として強制収容所に送られた日系人の屈辱と悲しみに少しは思いを馳せてみたらどうなのか。

△希▽